

— 英語科 —

社会や世界，他者と関わる中で，自分の気持ちや考えを 主体的に表現し，伝える力の育成

実践者 河野 操，向井 俊博
愛媛大学研究パートナー 池野 修，立松 大祐

第1章 はじめに

グローバル化が進んだ社会では，個性や考え方が異なる他者のことを理解し，意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り，よりよい関係を築こうとする態度が求められる。外国語教育では，これらの能力を高めるために，スキルの習得だけでなく，習得したスキルを生かし，互いの考えを理解し合い，折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。社会や他者と積極的に関わり，相手をより深く知ろうとする態度は，持続可能な社会の形成に必要な資質・能力につながるものであると思われる。

英語科では，これまでの研究で豊富な語彙力や豊かな表現力の不足を課題として捉えてきた。最終年次となる今年度は，場面を重視したパフォーマンス課題への取組を通して，社会や他者と関わる中で，自分の気持ちや考えを主体的に表現し，伝える力の育成を目指している。そのような中で，英語を使って生徒同士が協働的に学び合いながら課題を解決することによって，深い学びにつながり，自分の気持ちや考えを伝え合える生徒を育成することができるのではないかと考え，研究を進めた。

第2章 研究の実際

研究（その1）

統合的な運用能力を高める言語活動の工夫

—リーディング活動からライティング，スピーキング活動へ—

（実践者）河野 操

1 研究テーマ設定の理由

本研究では，「読むこと」「話すこと（やり取り）」の活動を通して「描写力」「発想力」の向上を図り，主体的に表現できる生徒の育成を目指したい。また，内容理解の言語活動を通して，まとまった英文の内容を理解し，内容について質問したり，要約したり，自分の意見や感想を論理的に述べたりすることが効率的にできるような力を付けさせたい。そのためには，読解力，作文力，口頭表現力などの統合的な運用能力を更に高める必要がある。これまでの課題として，語彙力の低さが挙げられた。得た内容を要約してアウトプットするための作文力や情景描写等の活動に取り組みさせて，語彙力の強化を図りつつ口頭表現力を高めるための言語活動を継続して行いたい。さらに，身に付けた技能を生かして，多様な情報の中から必要な情報を受け取り，理解するとともに，英語を使って生徒同士が学び合いながら課題を解決していくことが，深い学びにつながると考え，本研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

(1) 論理的に思考し表現する学び合いの工夫

主体的・対話的で深い学びを目指すためには、生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために、教育学部附属小学校の英語科と共有できる「CAN-DO リスト」形式の到達度目標を作成し、小学校との連携を意識して特に次の二つの点に留意した。一つ目は、「読むこと」「聞くこと」「話すこと（やり取り）」において、必然性のある場面を設定すること。二つ目は、生徒同士、教師とのやり取りを大切に、豊富なやり取りの場面を十分に設定することである。本文で扱われている内容に関連するテーマを取り上げ、単元のまとめとして上記の2点に重点を置いた活動を設定した。

(2) コミュニケーション能力を高める学習指導

コミュニケーション能力を高める方法の一つとして、「表現力」「発想力」を向上させることが有効であると考えている。授業では、生徒たちに教科書の挿絵について説明させたり、本文にない情報を織り交ぜた導入を聞かせたりした。そうすることによって、生徒が本文の内容を自分なりにアレンジしながらまとめたり、Show & Tellのようなスピーチにも抵抗なく取り組んだりすることができた。

(3) パフォーマンス評価の充実

活動中に相互評価をさせたり、活動後に自己評価をさせたりすることにより、次の活動の改善に役立たせたり、よりよい表現になるよう工夫させたりする機会を持たせた。また、CAN-DO リストとパフォーマンス評価を関連させ、到達目標を考慮しながらパフォーマンス評価に修正を加え、授業改善にも努めた。今までできていなかったことが「できるようになった」、活動を重ねて「前よりよくなった」ということを実感させることは、生徒が自己の成長を確認し、次の活動への意欲を高めることにもつながった。

3 研究の実際

(1) 指導の計画

ア 新出文型を使って過去の出来事を表現できる学び

小学校の外国語科では、小学校の思い出を題材に過去の出来事について表現する活動に取り組んでいる。中学校では、適切な場面設定を行い、体験した内容について手紙を書いたり話したりする活動を充実させ、過去形の文構造について定着を図った。

イ 異国に対する理解と違いを知る面白さを実感する学び

住んでいる国や地域によって、特有の生物がいたり、気候の違いがあったりすることに気付かせ、違いに対して柔軟に対応できる見方、考え方を養った。また、たとえ違いがあっても、共通して取り組むべき課題や守るべきものがあるという認識を持たせた。

ウ 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

「深い学び」では、「活用」「探究」「問題発見」「問題解決」「気付き」などが活動に含まれることが重要となる。主体的・対話的で深い学びを目指すためには、生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために、既存の知識や経験を生かしたり、すでに小学校の外国語活動・外国語科で使用したことのある単語や表現を使わせたりしながら、特に次の点に留意した。

新出文型の導入や内容理解の場面で、生徒同士、指導者とのやり取りを大切に、豊富なやり取りの場面を十分に設定したいと考えた。その際に、5W1Hを使った質問をしたり、感想、意見、第一印象、推測したことなどを言わせたりしながらやり取りを進めることを意識させた。また、やり取りを充実したものにするために、「描写力」と「表現力」を向上させることが有効であ

ると考えた。授業では、帯活動で picture describing に取り組ませたり、生徒たちに教科書の挿絵について説明させたりして「描写力」と「表現力」の向上に努めた。

教科書本文を活用した指導の工夫として、登場人物を自分と置き換え、体験したことを手紙に書く、体験したことを基に質問も交えて対話する、体験したことを紹介するというように、教科書本文と同じ流れで言語活動を試みた。そうすることによって、新出文型の定着を図るとともに、語彙を増やし表現の幅を広げたり、より深く内容について思考したりする活動になるのではないかと考えた。

(2) 指導の実際

ア 単元名

A Letter from Australia (TOTAL ENGLISH 1, Lesson 9)

イ 単元目標

○肯定文、疑問文、否定文を使って、過去の出来事についてやり取りをすることができる。

「知識及び技能」

○オーストラリアがテーマの英文を読んで、概要や要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合うことができる。

「思考力、判断力、表現力等」

○オーストラリアについて得られた知識や情報をもとにして、意見や感想を伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

ウ 重点目標

<本質的な問い>

自分が体験した内容を正しく伝えるには、どのような表現を使ったらよいのだろうか。

<永続的な理解>

動詞の過去形には、規則動詞と不規則動詞があり、動詞を語形変化させなければならない。規則動詞は、動詞の語尾に-ed を付けるが、-ed の発音にはいくつかのパターンがある。また、基本的な動詞ほど不規則動詞が多いため、表現の幅を広げるためにも、不規則動詞をしっかりと身に付けることが大切である。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
過去形の特徴やきまりを理解し、自分が考えたことや感じたこと、その理由などを、過去形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、オーストラリアで体験したことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、オーストラリアで体験したことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。

オ 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたはある旅行会社の担当者です。旅行先の候補であるオーストラリアについて中学生の目線で紹介してほしいという依頼がありました。バーチャルトラベルを体験し、オーストラリアの魅力やおすすめのお土産について、パンフレットを見せながら紹介してください。	○課題追究状況の観察 ○ワークシート ○振り返りシート

カ パフォーマンス課題についてのルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	場面に応じた適切な表現や単語を用いて、聞き手に分かりやすく話すことができる。	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに詳しく述べたり、相手の考えを求めたり、話題を広げたりしながら対話を継続したりすることができる。	分からない単語や表現を教科書や辞書を使って調べようとしている。
B	場面に応じた適切な表現や単語を用いて、話すことができる。	完成したスピーチ原稿を音読して紹介することができる。	分からない単語や表現を教科書や辞書を使って調べたり、友達と相談しながら解決したりしようとしている。
C	誤りが多く、場面に応じた適切な表現や単語を用いて、話すことができていない。	完成したスピーチ原稿を見ても十分に紹介できない。	分からない単語や表現を調べたり、友達と相談したりしようとしなない。

キ 指導計画（全 10 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・過去形（規則動詞）の肯定文の文構造を理解し、運用する。	知		・過去形の肯定文（規則動詞）の文構造を理解し、適切に使っている。（ワークシート）
2	・過去形の疑問文、否定文の文構造を理解し、運用する。	知		・過去形の疑問文と否定文の文構造を理解し、適切に使っている。（ワークシート）
3	・過去形（不規則動詞）の肯定文の文構造を理解し、運用する。	知		・過去形の肯定文（不規則動詞）の文構造を理解し、適切に使っている。（ワークシート）
4	・Lesson 9A の内容を理解し、音読する。	思		・ベンの手紙の内容を理解し、概略をつかんでいる。（ワークシート）
5	・Lesson 9B の内容を理解し、音読する。	思		・対話の内容から、オーストラリアの動物について概略をつかんでいる。（ワークシート）
6	・Lesson 9C の内容を理解し、音読する。	思		・ベンスピーチの内容から、オーストラリアのユニークな動物について概略をつかんでいる。（ワークシート）
7	・Lesson 9 のイラスト描写とサマリーをする。	思	○	・本文の内容を把握し、ピクチャーカードを使って、英語で概要を説明している。（ワークシート）
8	・バーチャルトラベルについて手紙を書く。	知 思	○ ○	・オーストラリアの体験についての手紙を書いている。（ワークシート）
9 本時	・手紙を読み、体験の内容を確認する。 ・オーストラリアについてやり取りする。	知 思	○ ○	・オーストラリアの体験についての手紙の内容を把握している。（ワークシート） ・オーストラリアを話題に友達とやり取りをしている。（ワークシート）
10	・パフォーマンス課題に取り組む、オーストラリアの魅力を紹介する。	知 思 態	○ ○ ○	・課題に沿って、オーストラリアの魅力を分かりやすく紹介している。（パフォーマンス）

(3) 授業の実際 (9/10 時間)

ア 主題

オーストラリアで体験したことについて、友だちとやり取りをしよう。

イ ねらい

○バーチャルトラベルについての手紙の内容を理解することができる。

○オーストラリアの話題について友達とやり取りをすることができる。

ウ 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準 (評価方法)
1 Warm-up (全体)	5 5	○ALT の紹介を聞かせた。 ・ It's beautiful. ・ I want to go there. ○新出語集ややり取りのための表現を確認させた。	○後のやり取りを活発にするために, ALT の説明を聞かせた。
学習課題: オーストラリアで体験したことについて, 友達とやり取りをしよう。			
2 内容理解 (個人)	15	○自分が書いた手紙を交換させた。 ・ メモを取りながら相手の手紙を読み, 内容を把握した。 ・ 質問したいことを決めた。 	○内容を把握しやすくするために, できるだけ簡単な単語を用いて手紙を書かせた。 ◎手紙の内容を把握し, 適切な質問を作っているか。 (ワークシート)
3 話題についてのやり取り (ペア)	15	○オーストラリアを話題にし, 自分の体験についてやり取りをさせた。 ・ 写真などを示しながら, 見たたり聞いたたりしたことを説明した。 ・ 話した内容について質問したり, それに答えたりした。 ・ お土産を渡したり, やり取りを楽しんだりした。 	○オーストラリアの話題をもとに, 質問も交えて友達とやり取りさせた。 ◎つなぎ言葉や質問を使って時間いっぱい話題についてやり取りができているか。(観察)
4 活動内容の共有 (全体)	5	○興味深かった点やよかった点を発表させた。 ・ I'm very interested in Aboriginal culture. ・ I enjoyed talking about Australia.	
5 Reflection (個人)	5	○振り返りシートに取り組ませた。 ・ 本時の学習を振り返り, 次回の活動に生かそうとした。	○次時の活動に生かせるように, しっかりと振り返りをさせた。

(4) 生徒の学びの実際

教科書本文を活用した指導の工夫として、登場人物を自分と置き換え、体験したことを手紙に書き、それをもとに質問も交えて対話し、それを紹介するというように、教科書本文と同じ流れで言語活動を試みた。そうすることによって、新出文型の定着を図るとともに、語彙を増やし表現の幅を広げたり、より深く内容について思考したりする活動になった。教科書本文の登場人物のように、オーストラリアを旅行し（バーチャルトラベル）、お土産を選んだり、旅行の経験を手紙に書いたりする活動を行った。疑似体験したことをもとに、アボリジニの文化について詳しく説明している内容となっている（資料1）。続いて、資料1の手紙を読み、キーワード、要約、感想、質問を考え、ワークシートにまとめた（資料2）。資料2が、お土産を渡しながらか質問を交えて対話する即興のスピーキング活動に有効だった。

January 27, 2021

Dear _____,

Hello! I arrived in Sydney, four days ago.

I'm enjoying a trip to Australia. It's summer here and

I'm too hot! I saw koalas and other unique animals. They are so cute. I held a koala in my arms.

By the way, Do you know Aboriginal people? They have

lived in Australia since forty thousand years ago. I ask local

people about Aboriginal people. I'll introduce their culture to

you. First culture is "Didgeridoo". It is their traditional

and the oldest wind instrument in the world. "Didgeridoo"

is the same kind with trumpet. It's a meter to four meters

long. Second culture is "Bush tucker". It's a traditional

Aborigines' food and they eat kangaroos, emus, lizards and

many kind of plants. They also eat bugs and they are good for

your health. Aboriginal people have a lot of other culture.

I'm interested in them very much.

Enjoy pictures in this letter, too!

Your friend,

資料1 生徒が体験後に書いた旅行の手紙

1	key words	• Witchetti Gnak • like the chicken • traditional Aboriginal food • crazy
2	summary (要約)	She arrived in Australia last week. She ate "Witchetti Gnak". It's a traditional Aboriginal food and taste is like the chicken. They look crazy, but they're delicious.
3	impressions (感想)	They look crazy. I'm surprised about they're delicious, but I don't want eat them. I wondered Australian usually eat them.
4	questions	(1) Q: How do you say "Witchetti Gnak" in Japanese? A: _____ (2) Q: Do people eat them except Aboriginal? A: Yes, they do. (3) Q: How do they cook this worm other way than this? A: _____ (4) Q: Where do you eat Witchetti Gnak? A: They eat raw. (5) Q: Did you eat unique food except these in Australia? A: At a restaurant. (6) Q: Did you ate other unique animals. A: I ate steak, cake, Tim Tam and so on. (7) Q: _____ A: _____

資料 2 手紙を読んだ後のまとめシート

4 成果と課題 (○成果 ●課題)

(1) 論理的に思考し表現する学び合いの工夫

○必然性のある場面設定や豊かな対話の機会を持つことによって、単なるスピーチや単語を並べた対話ではなく、相手の意見を聞いてその内容に関連させた内容を述べたり、根拠や理由を含めたと述べたりすることができた。

●自分の体験を手紙に書くと、内容が豊富になる利点はあるが、難しい語彙や表現が含まれるために、それぞれの英語力によって読むのに時間がかかった生徒もいた。

(2) コミュニケーション能力を高める学習指導

○話題を変えながら生徒同士、生徒と教師、生徒とALTのやり取りを継続して行うことによって、実践の場が増え、コミュニケーション力の向上につながった。

●表現力や発想力を高めるために、既習事項を生かした様々な場面や幅広い話題の設定が必要である。

(3) パフォーマンス評価の充実

○パフォーマンス評価に関して事前に生徒と共通認識を図り、それを念頭において準備や練習に取り組ませることによって、より多くの生徒が到達目標を達成することができた。

●到達目標を達成できない生徒に対する指導の手立てや支援のあり方を工夫する必要がある。

参考文献

- ・田尻悟郎(2017)「田尻悟郎の英語教科書本文活用術！一知的で楽しい活動&トレーニング集」 教育出版株式会社
- ・田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸(2011)「推論発問を取り入れた英語リーディング指導深い読みを促す英語授業」 三省堂
- ・田中武夫・田中知聡(2010)「英語教師のための発問テクニック英語授業を活性化するリーディング指導」 大修館書店
- ・中嶋洋一・直山木綿子・久保野雅史(2017)『『プロ教師』に学ぶ真のアクティブ・ラーニング“能働”的な英語学習のすすめ』 開隆堂出版